

令和4年度 (一社) 犬山祭保存会理事会 第1回 議事録

●日時

令和4年8月27日(土) 19:00~20:30

●場所

IMASEN 犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房 2F

●出席者(敬称略)

【常任理事】会長(石田)、会長代行(多和田)、副会長(澤野、小林、長谷川)、会計(下山)、財務委員長(今井)、伝統文化委員長(市橋)、伝統文化副委員長(長井)、てこ委員長(浅野)、てこ副委員長(吉田成伸、陸浦)、企画広報委員長(松田)、企画広報委員長代行(齐木治郎)、企画広報副委員長(柴田、林)

【理事】枝町組理事(武藤)、魚屋町組理事(小川)、下本町組理事(松岡)、中本町組理事(栗谷)、熊野町組理事(浅野)、新町組理事(坪内)、本町組理事(安田)、鍛冶屋町理事(市橋)、名栗町組理事(森)、寺内町理事(三輪)、余坂組理事(藤澤)、外町組理事(伊藤)、内田町組理事(若山)

【企画広報委員】齐木美加、前田、吉田昌司、梅田

【犬山市】歴史まちづくり課(加藤課長)、観光課(小池課長)、経済環境部(中村部長)、地域協働課(中村課長以下3名)

【その他】観光協会(片山)、保存会事務員(竹村)

●議事

I. ①会長挨拶 ②報告事項

II. 議題

① 秋の祭事について(10月22日・23日)

② 次世代育成事業 10月29日(土) 企画広報委員会

③ 愛知県山車祭り保存協議会総会 10月1日(土)

④ 北小PTAより

⑤その他

●配布資料

- ① 秋の催事についての次回の理事会での検討事項
- ② 定款について
- ③ 令和4年 秋の催事における「新型コロナウイルス感染症拡大防止策のお願い」
- ④ 愛知県内の秋の山車祭状況（8月25日現在）
- ⑤ 第20回愛知山車祭り保存協議会総会のご案内

●議事内容

I.

① 会長挨拶

- ・会長： コロナがかつてないほどに増えており、犬山でも毎日増えている。そんな中で今年の春の犬山祭は、3年ぶりに若い人たちが元気を出してやってくれたが、一日しかできなかったということで、その未消化の分を秋にやろうという声を聞いていたが、このコロナ禍では無条件に、4月の未消化分を秋に爆発させるというわけにはいかなくなりました。
今日は秋の催事についてどう考えていくかということを中心に皆様に議論いただくこととなる。澤野副会長が、犬山北小学校の歴代PTA会長の会長をやっておられる。その関係で、犬山北小学校が創立150周年という歴史ある重要な年をむかえ、有志の皆さんでこれを御祝いする寄付金を募ろうということになった。澤野副会長から説明していただくが、保存会としては、社団法人ということで公的な資金が入っているので、検討したところ、保存会として寄付というのは慎重にした方がよいという結果が出た。澤野副会長がPTA会長会の会長ということもあり、澤野副会長からお願いさせていただくということでご支援賜りたいと思う。
本日の4つの議題のご検討についてよろしくお願ひしたい。

② 報告事項

- ・専務理事： 8月6日で津島市文化会館で第10回の県と至学館共催のシンポジウムが開催され、犬山からも14、5名参加していただき、盛大に行われた。現在報告書を作成中なので完成したら配布する予定。
東海三県に11のユネスコ指定の祭りがある。全国で33の指定の祭のうち、3分の1があるということで、その連合組織を作ろうということで、去年の大会で決まっておられ、東海三県の皆さまからも賛成の意向を示していただいた。愛知県の日本一協議会の事務局が引き受けると明言して下さったので、二、三年のうちに設立されると思う。詳細は追って報告させていただく。

II. 議題

① 秋の催事についての次回の理事会での検討事項

・会長代行：秋の催事について、企画広報、伝統文化、てこの合同委員会が開かれ、そこで話し合われた事項を今回ご提案させていただくということである。事前に理事の皆さんにはメールその他で案内済みなので、それぞれのご意見を頂戴したい。

・企画広報委員長：会長のお話であったように、春の祭りが不完全燃焼ということと、保存と伝承という意味で、今後我々ができることを三委員会で話し合った。その説明をさせていただく。以前、秋の催事において、今回からくり町巡りの事業の中で車山を出せないかということについて検討した。秋になぜやるかということについて、この三年間車山を出せておらず、子供たちのことも考え、保存伝承という意味を込めて、ということである。また、現在保存会でも会員・会費制の改革を進めているが、活性化を図るということもある。三つ目に、文化庁が、保存から活用へということで大きな方針転換がされていることも議論の中に含めて検討した。

「コロナが始まってこの三年、そして今年の春も雨天で一日しか車山行事をすることが叶いませんでした。来年の春に向けて、祭の心を蘇らせ、今一度活気を取り戻す

ために、そして老若男女全世代が楽しむために私たちは何ができるのか、てこ委員会、伝統文化委委員会、企画広報委員会の3委員会で話し合っまいりました。

昨今は文化庁の文化財への価値も、保存から活用へと見直されてきております。

そこで今秋はからくり町巡りとともに車山を出せないかと議論を重ね、本日の理事会にて皆様のご意見を賜りたく思っております。」

孫からおじいちゃんまで楽しくできるようにしていけたらと思っているので、是非ご議論を賜りたい。

案として、10月22日に車山運行をする。内容については状況を踏まえて話し合っただきたいと思う。神社に集結、または春のように自町内曳き回し。自町内でからくりをやりたいという場合はやっていただくこともある。

23日は従来のからくり町巡りをしっかりやるということで、色々な場所で行って皆さんが見て歩いて楽しめるようにしていきたい。

演技は何回やっていただいてもいいが、この町内はこの場所のこの時間にやっていますという周知はしていただきたい。決められた時間をお願いしたい。

場所は今仙電機、からくり館、文化史料館、どんでん館、余遊亭、熊野神社等でやっていく予定。

そういったことについて議論をしていただきたい。今回の事例は特例ということで、例年のからくり町巡りではなく、犬山祭と区別をするために、「犬山城下町祭り」と名称変更を考えている、そこについてもご協議をお願いしたい。

また、昨今の愛知県内の祭の状況について事務局に調べていただいたので、専務理事に報告していただく。

・専務理事：愛知県内の秋の山車祭の状況を、関係者に電話して確認した。

まず9月24、25日に東海市尾張横須賀まつりがある。こちらは犬山祭をモデルにして行うとのこと。室内は極力避け、過度なPRもしない、コロナ対策もやるということである。

10月1日、2日の東海市大田まつりも同様に開催。

10月1日の津島秋まつりについて。同じ日に津島で愛知山車祭保存協議会の総会がある。こちらでも縮小して行う。文化会館近くに5輛山車を出してお見せするとのこと。また本日の8月27日にお囃子大会を行っている。

10月8日、9日が豊田市足助祭り。こちらは以前からコロナ禍でも通常通りやっており、今年もコロナと関係なく行うとのこと。

同じ日に大府藤井神社祭礼。これは本来二日開催だが、一日のみで曳き回しをやって、神社に舞台を作って女三番叟を舞う。知多半島特有の餅投げは中止。

10月15、16日の豊田挙母祭も縮小して行う。

これに関しては、祭関係者から、犬山がどうやったかを聞かれて、このようにやっておりますとお答えしている。犬山がリーダー的なモデルになっているという意味である。

企画広報委員長：皆さん考えてやってらっしゃるという状況ではないかと思う。

今後のスケジュールについて。まず本日の理事会でご議論いただきたい。そして町内に持ち帰り検討していただき、9月17日に、最終的にどのような形にするかを決定し、てこ委員会で巡行の案を作っていたいただき、伝統文化委員会でからくり町巡りの案を作成していただく。コロナの状況を見ながら10月8日に最終決定として当日を迎えたいと思う。

コロナも大変であるが、本日お集まりの皆さんやご町内の方々、子どもからお年寄りまで皆さんが楽しめる企画を是非やりたいと思っているので理事としてのご議論をお願いしたい。

- ・ 伝統文化委員長：各ご町内で皆さんご意見を持ってきてらっしゃると思うので、その関係でご議論いただきたい。
- ・ 会長代行：事前に各理事にも資料が行っていると思う、タイトなスケジュールであるが、理事さんのご意見をお聞きしたいと思う。
- ・ 外町：先週、町内で理事会を行い、基本的に巡行は車山を組まなければならないため、今回は出さないという形となっている。からくりは土曜日、日曜日のどこかでやるのならやらせていただきたい。また要望として、場所について、外町の車山蔵を、雨天の場合などもあるので、使わせていただきたい。自町内なら雨の対応も早くできる。よろしくをお願いしたい。
- ・ 余坂：町内で話し合いし、まず22日の車山の運行は前向きに考えている。ただし諸事情によって話を詰めていっているところなので、まだ先にならないと分からないところもある。22日に車山を出すならからくりも載せてやりたい。しかし余坂は今年解体作業があるので、23日のからくりは厳しいので、遠慮したい。
- ・ 寺内：委員会で意見を出し合ったが、まだ結論が出ていない。日曜日のからくりは協力させていただきたい。場所は車山蔵の前でやらせていただきたい。
- ・ 名栗：からくり町巡りはやるということで、町内で承知しているが、車山を出すことについては考えていなかったもので、これに関しては町内に持ち帰って検討したい。からくりをやるとしたらどんでん館の前でやることになると思う。
- ・ 鍛冶屋：伝統文化委員長と鍛冶屋町理事を兼任することになったのでよろしくをお願いしたい。

22日車山運行について、予定として、昼はどんでん館から自町内に持って行って、夜はやめておくという考え。自町内の周辺を曳く予定。

自町内に持ってくる時に、4月と同じように、どんでん館から鍛冶屋町にもっていき、鍛冶屋町で曳いて、からくりをやって、どんでん館に戻すという予定。

23日は、どんでん館の方でからくりをやる。車山の上でやる予定だが、車山を出す時に、下本町、中本町、名栗町、鍛冶屋町の4町内との時間の調整もあると思うので、また相談させていただきたい。

- ・本町：今の状況では車山の運行はむずかしい。からくり町巡りは参加したいと思っている。やるとしたら車山蔵の前でやりたい。
- ・新町：車山を出さずに、からくりを、土日のどちらか一日でやりたい。23日にやる予定。場所は従来史料館だったが、車山と見学者の距離が近く密になるので、できれば車山蔵の前でやりたい。雨天の場合は中止とならざるを得ない。
- ・熊野町：22日の車山の運行に関して、出すことは可能。23日のからくりは神社の中でやらせていただきたい。
- ・中本町：車山を出すのに町内で意見があり、神事でないのになぜやるのかという声がある。イベントとして車山を出すとなると、町内に住んでいる人に、そのイベントにどれだけメリットがあるのか、ということ考えた時に、あまりないのではという意見がある。伝統を受け継ぐというお話はもちろん解るが、イベントとしてやることへに対して、それはどうなのか、という意見がある。
また予算的にも厳しい。春もやって、それなりに予算を出している。また秋に同じようにやるとなると、町内の予算が非常に厳しい。そのため、それをやるだけのメリットがあるかどうかという意見が多い。申し上げにくいことではあるが、そういうことがはっきりしないとできないという意見が多いのが事実である。
からくりは今までもやってきたことなので、やっていいのではという声がある。最終的には上山衆と相談して、できるかできないかを任せようという話になっている。
- ・下本町：車山の運行は、車山の屋根が修理中のためできない。からくりは日曜日にどんでん館でお願いしたい。
- ・魚屋町：車山の本柱の修理に入っており車山を解体している。高山に具材が行っているので車山運行はできない。23日のからくり町巡りは参加の方向で考えている。車山の具材が戻ってれば23日に、車山の上からからくりを載せてやる予定。からくりは余遊亭でやらせていただければと思っている。
- ・枝町：過去の議論の中で、秋は神事でないのでやめようという議論が出たので、車山を出すのはどうかと思っている。従来のコロナ禍以前のからくり町巡りのようにからくりを行う予定。
- ・会長代行：皆さんからいただいたご意見を調整して、次回の9月17日には皆さんの要望に沿った企画を作ってご提案させていただく。

② 次世代育成事業

- ・企画広報委員長代行：次世代育成事業として、通常はからくり町巡りを中心に行っていたが、からくり町巡りの方でも議論？がされていることもあり、詳細がまだはっきり出ていない。議論を重ねる必要があるが、今の案としては、一緒にやるという形を検討している。学校関係、からくり文化振興部とも協議を重ねていないので、今後話し合う流れとなっている。やるかやらないかは、やる方向で考えている。話が進み次第お話をさせていただく。
- ・会長代行：行政側との密接な関係を元に、一緒に協力してやっていくことなので、各町内のご意向が出て、その上で、からくり町巡りについて行政としてどのような形で準備していただけているのかというお話をさせていただきたい。
- ・観光課長：皆様のご意見をお聞きして、皆様が様々な形で検討されているということは承知した。事前に役員の方とお話したが、秋の催事をやるうえで、市としては、春の祭の場合、四団体で構成されている企画委員会を経て、警備やごみステーション等の準備調達を行うが、秋については、もともと企画委員会で車山を出すということが事業として決定しているものではない。秋はからくり町巡りをやるということで企画委員会を経て議会の承認を経て予算執行されている。
今回車山を出す提案について、改めて予算を市から抛出する上で、市としてのさまざまな調整が必要となるということは皆さんと共有させていただきたい。スケジュールが非常にタイトなので、様々な手続き準備調整が必要。そういった部分をやるとなると、最終決定が10月8日ということで、その以前から調整が必要となる。そのあたりが懸念されている。
予算を執行するのに手続きと準備が必要という部分。そしてスケジュールとして厳しいという懸案事項を共有させていただく。
そういった部分を踏まえてご検討いただくことになる。いずれにしてもこれからからくり町巡り、車山を出すとなると市としてやれることはご協力させていただく。皆さんの思いというものも分かっているので、祭の保存伝承を活性化していくことは賛同して支援させていただく予定。
- ・会長代行：準備不足の面もあったが、これからスピードアップしてやっていく予定なので、前向きな対応をよろしくお願いします。このことについては理事の皆さんの答えで、前向きというところと、結論が出ていない町内もあったということで、それを踏まえて進めさせていただく。
- ・観光協会：観光協会は宣伝という部分も担っているが、10月にも県内で色々な祭があるが、犬山モデルというお話もあり、事前に大きな宣伝をしないということも共有されているので、もちろん協力はさせていただくが、旅行会社やメディア等には大きなPRは控えさせていただくという方針である。
またからくり町巡りで、インディゴとの関連事業のお話もあるので、こちらも調整させていただく予定である。
- ・会長代行：いい企画にしたいのでこれからもご協力のほどよろしくお願いします。

③ 愛知山車祭保存協議会総会

- ・専務理事：愛知県には二つ大きな組織がある。知事のあいち山車まつり日本一協議会、またもう一つは万博の百輛揃えの時にできた愛知山車祭保存協議会がある。これが今回20回目を迎えるということで毎年総会をやっており、今年は津島でやることになっている。伝統的に津島でやる時は犬山がお手伝いすることになっているので、現在、津島と連絡しながら進めている。10月1日に行われる。犬山もなるべく多くご参加いただきたい。参加費の一部は保存会の会計で負担していただく。参加費は2千円。本日ご出席の方はご参加していただきたい。後日改めてご案内するので、前向きに検討していただきたい。

④ 北PTA

- ・澤野副会長：犬山北小が150周年を迎える。1872年、明治5年から創立していたということで、それ以前は寺子屋だったということである。近代的な学校制度ということで、6歳から学校に入るという義務化が法律として課せられたということである。このように早い時期から始まっているのは全国でも、愛知県下でもそうない事例である。南小学校は十数年前に100周年を行った。その当時、田中実行委員長のもと行った。

皆様方に封筒を配ったが、その中に、協力金をお願いしたい文書を入れさせていただいた。保存会は収入の部に税金が入っているからほぞんかいの寄付する形は良くないということで、皆さん個人個人からいただくということである。賛同者の方には是非寄付金をお願いしたい。

式典、学校整備事業等、正門の建て替え、校舎壁面の吹き付けなど、本当にお金がいる。今現在、学校の中でも様々な方々と150年、200年に向けて色々な会議をしている。色々なディスカッションをした。北小学校に対して、地域として何をやれるかということで皆さんに頑張ってもらっている。行政にも実行委員長の中に入って頂いている。

そんな中で、11月に記念式典があり、そこに向けて全力投球して頑張っている。寄付金は強制ではないが、ご協力いただける場合は次の理事会に持ってきていただけたらと思う。

17日までに事務局に持ってきていただいても対応可能なのでよろしくお願い致します。

- ・会長代行：秋の催事については理事の皆さんのご意見を参考に17日までに各委員会を開き、具体的な立案を出していただいて、17日の理事会で修正するという形となる、そのあたりは理事のお話を聞いて進めていかないとスケジュール的に難しいので、早急に委員会を開いていただいて議論を出していただきたい。

・会長：予定された議案はご審議いただいたということで、皆さんのご意見を聞いて、私の感じたことを申し上げる。今日は令和4年度第一回の理事会である。昨年度から今年度にかけて変わったのは、会費会員制の導入である。この意味は、犬山祭を広く開くということである。皆さんで議論をしてそういう方向付けをした。事実、今日の案も、企画委員会、てこ委員会、伝統文化委員会の若い人たちが練り上げてくれたものである。一番やらなければならないのは、若い世代にバトンタッチする、次世代に育成していくという意識を持つことであり、犬山祭保存会の将来の一番重要なテーマであると考えている。そういう気持ちで、若い人が練り上げた案なので、斟酌していただき、ご意見をいただき、気持ちを買ってやって頂きたいと思う。

本日、いろいろな意見があったが、大事なのは市民がどう思うかということである。今年の夏のロングラン花火も市民はみんなとても楽しみにして喜んでいて。犬山祭関係の諸行事も、税金が投入されているので保存会の我々が市民に提供し、皆様に喜んでいただくという観点が大事であると思う。

ご町内に戻ると、難しいことがあるのは承知しているが、保存会の一つの方向として、犬山祭の活動は一年中やっていく、伝統を継承する、ということがある。神事は4月第一土日だが、犬山祭の伝統を引き継ぐという意識は、一年中持つべきだと思うので、理事の皆さんはその点について方向性を一致させてご理解いただきたいと思う。

私は大学で祭とコミュニティの研究をしているので色々な祭を見に行くが、最近一宮の七夕祭りや安城の七夕祭りを見た。安城の祭はコロナ禍で10分の1の集客となったが、本来だと一週間やって150万ほど来る。一宮も凄い。七夕まつりは全国で100ほどあるが、安城、湘南ひらつか、仙台が三大七夕祭りと言われている。これは我々犬山祭と違って、実行委員長は市長で、商店街が中心になってやっている祭である。町中全体が出てきてかなり盛り上がる。しかし、我々の伝統的な祭とは根本的に違う。沸き立つような熱気はない。

今、名古屋でどまつりをやっている。これも補助金なしで、自分たちで7、8億集めると言われる。これもとても熱気がある。名古屋の大都会でやる、すごい祭である。

このような祭を都市祝祭とって、日本の伝統的な祭と少し違う方向に行っている。観光客がいて、グローバルズム、地域にこだわらない人たちを巻き込む都市祝祭ということで、これをアソシエーション社会という。協同社会ともいう。誰でも参加してください、祭というテーマでみんな楽しんでみましょうという社会に、日本全体がなりつつあるという見方がある。

犬山祭も、方向性としてはアソシエーションを包含していく。コミュニティ社会、地縁に関係ない人を巻き込んでいく、犬山祭が好きだという人を巻き込むという方向に決まったので、その方向性を心に留めていただきたい。その中から、一年中なにか犬山祭の伝統、伝承に関わることをやっていただきたいと思う。例えばお囃子は一年中練習した方が良いのではないかと思う。町内の、近隣の人間関係を濃くしていく。皆で集まって世間話をして、祭の話を媒介にして、近所や地域やふるさとの話をする機会を作るのが大事ではないかと思う。

話をし合いながら、色々な意見を認め合い、その上で方向を決めたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

市役所が理事会に出てきてくださるのもありがたい。観光課、歴史まちづくり課、経済環境部課、地域協働課と来ていただいている。

そして地域協働課は、まさに、我々犬山祭保存会と関わる、地域のコミュニティの係である。協働課は、どれだけ外国人を犬山に入れるかというテーマがある。犬山保存会自体も、地域協働課の方々と意見交換しながら、犬山市の地域協働課の目指す行政にも協力するという視点も必要ではないかと思う。

・地域協働課：今ご紹介にあったように私共の仕事としては、外国人のサポート、町内会、コミュニティの支援、市民活動の支援、といったように、そういった協働をサポートすることとなる。コミュニティ、町内や地域の支援というものに力を入れている。保存会のように地域と密着して活動されているところをしっかりとサポートしていきたいと思っているので、理事会にも参加させていただいている。今後もしっかりとサポートさせていただくのでお願いします。

・経済環境部長：会長がお話されたビジョン、会則を変えられたことによる方向性というものが明確にされたと思っている。そういった形で祭や保存会が進化していき、色んな方を巻き込んでやっていくということで、行政の立場で、我々もそれぞれやらなくていけない決まりがあるので、そこで皆さんと話合いをしてやっていきたい。

秋のからくり町巡りも、課題が行政側にもあるが、会長のおっしゃるように若い世代を中心にお話を進めていきたいと思っている。コロナが終息しないという状況もあるが、また秋の催事に向かって話を進めさせていただきたいと思うので、よろしくをお願いします。

・会長代行：9月17日は今日の議題の延長となるので、理事の皆さまも、また町内でご検討いただいて、もう一度ご意見を頂戴したいと思う。よろしくお願ひいたします。

●次回日時

令和4年9月17日

●次回場所

からくり館2階

●記録日

令和4年9月3日

●記録者

竹村

●署名

石田芳子

多和田兼道